

新しい生活様式における民生委員児童委員活動に向けて

# News letter M I N S E I

Vol. 1 2021.5

川崎市宮前第5地区民児協 会長 小谷田寛さん

「やれることをやろう」  
具体的に動けば  
具体的な答えが返ってくる



## 若いときは世の中のために、晩年は地域のために

小谷田さんが民生委員・児童委員（以後民生委員）になったのは約20年前。50歳のときに、町内会の相談役から民生委員になってほしいという依頼がありました。最初は断ったものの、熱心な勧誘を受ける中で、幼いころ祖母から言われた「若いときは世の中のために、晩年は地域のために」という言葉を思い出し、引き受けることに決めました。

最初は何も分からずに始めた民生委員でしたが、いろいろな人と出会い活動を続ける中で、自分自身が磨かれていったという小谷田さん。当初は10年でやめようと考えていましたが、続けるうちに役職がつくことで責任が伴っていき、2019年にはついに会長に就任しました。

小谷田さんは、「地域での独居死・孤立死をなくし、子どもたちが安心・安全に暮らせる街を作りたい」と考えており、小学生の登下校時は、毎日、仲間の民生委員と一緒に自ら通学路に立って、見守り活動を行っています。

## コロナ禍で活動を縮小せざるを得ない状況に

小谷田さんが会長に就任した直後に、新型コロナウイルス感染症の影響で民生委員の活動は縮小せざるを得ない状況になりました。地域の一人暮らし高齢者向けに行っていた会食会やおしゃべり会（お茶会）も中止となり、一人暮らし高齢者が外に出るきっかけだったため、健康状態や安否確認を行うのも難しくなっていました。

そんな中でも地域の高齢者からは「再開してほしい」という声もあり、年が明けた1月から感染症対策をしたうえで食事会などは開催できないかと計画していましたが、緊急事態宣言でそれも中止。お茶会くらいはできないものかという話もしていますが、現在は会場を借りることができないため、実施が難しいと言います。

「コロナ禍でもつながり続けることを大切にしたい」

と和やかな眼差しで語る小谷田さん



### コロナ禍でも「やれることをやろう」

コロナ禍であっても、小谷田さんは「やれることをやろう」と活動を続けてきました。特に小学生の登下校の見守りや高齢者の安否確認は、三密を避けて積極的に続けました。

また、会食や食事などもなくなり、寂しい思いをしている地域の高齢者に向け、小谷田さんの妻のふさ子さんが手編みした靴下に手紙を添えたプレゼントを配布して回りました。配った靴下100足以上は、自粛期間に約1年かけて作ったもの。心のこもった温かい贈り物に対して、わざわざお礼を言いに来る高齢者もいたそうです。

### 具体的に動けば具体的な答えが返ってくる

コロナでさまざまな活動が停滞している一方、活動の再開を待ち望む高齢者も地域にはたくさんいて、民生委員は非常に歯がゆい思いをしています。「コロナだからと言って引込み思案になりすぎず、適度に怖がり、適度に怖がらないで活動してほしい。見守りや安否確認は続け、コロナのせいにはせず、こんな時期だからこそ困っている人を見逃さないようにするにはいけない」と小谷田さんは言います。

そのような思いでコロナ禍でも毎日行っている登下校時の見守り活動により、地域の反応が変わってきました。始めたころは大人からは挨拶をしても返ってくることが少なかったそうですが、今ではほぼ全員から返ってくるようになりました。「動かなければ答えは返ってこない。具体的に動けば、具体的な反応が返ってくるはずだ」と小谷田さんは力強く語ってくれました。

公園で遊ぶ子どもたちを見守るようす



(毎日新聞.2020.5.29.地域版.掲載写真)

\* 神奈川県社協 民生委員児童委員部会は、県・政令市の民児協が参画する協議体です。様々な地域性やきめ細やかな幅広い委員活動から得る多様な情報や知恵を集結し、県政令市の枠を越えて、交流、研修情報収集、意見具申など、スケールメリットを活かした協働事業の運営を行っています。

\* このニューズレターは、神奈川県内の民生委員児童委員向けに「新しい生活様式」に向けた委員活動やコロナ禍における委員の思いを発信するために、不定期に発行します。



ホームページ : <http://www.knsyk.jp/>



ツイッターアカウント : @kanagawa\_syakyo